

障害者支援施設視察結果

1 視察先

社会福祉法人武蔵野会 小平福祉園

主たる対象：身体（視覚）、知的

定員：42名（居室21）

敷地面積：約8,269㎡（1階建）

建物延べ面積：約3,484㎡

併設サービス：生活介護、短期入所、就労継続支援B型、児童発達支援、放課後等デイサービス

2 日時

令和7年1月14日（火）10：00～12：00

令和7年1月15日（水）14：00～16：00

3 視察内容要旨

(1) 小平福祉園について

- ・ 入所者の平均年齢55歳。毎年3～5名程度の入れ替わりがある。理由は死亡、療養型施設への入所、入院等。
- ・ 都立施設であったものを都が民間に移譲する際に運営をはじめた。土地は現在も都が所有。土地は無償貸与。
- ・ 平成28年に通所施設併設のため建替え。建築費は都負担だが、運営費は法人負担。
- ・ 建替え時には、光が丘の都有地に施設機能を全て仮設にて移転した。
- ・ 土地の無償貸与及び建築費負担の条件として、視覚障がいのある重度知的障がい者を対象とすること、入所には都立施設同様に都の調整会議が必要。
- ・ 就労継続支援B型は定員割れの状況。生活介護利用者が軽作業をすることもある。
- ・ 通所事業を開始してからこども食堂、遊び広場など地域交流（貢献）ができるようになった。体育室、あそび広場は地域に開放している。合わせて近隣中学校の不登校児の受け入れも行っている。
- ・ 短期入所の受け入れについて枠は男性4名、女性2名。大変な家庭の場合送迎も行う場合もある。小平市、東村山市と地域生活支援拠点の協定を締結している。

- ・ 建物についての反省点として、デザインが良い仕上がりだが、支援を行うに当たり死角が多く、見守りが困難と感ずることがある。
- ・ 複数で入浴することを想定していたが、実際には個別支援が必要なため、一人ずつしか入浴できず、設備や水道代が無駄となっている。
- ・ 施設全体の利用者は登録者100人程度。うち42人が視覚障がい（入所はすべて視覚障がい者）
- ・ 建替え時に市と協議を行い日中活動サービスを決めた。（当時は就労支援継続B型も需要が多かった。）
- ・ 保育園・幼稚園と併行利用の児童発達支援利用者について、保護者の依頼があれば園見に行き行って連携をとっている。（保育所等訪問事業としてではなく、児童発達支援の付加サービスとして。）

(2) 入所施設の整備及び運営について

- ・ 高齢化・重度化への対応や、若い人と高齢者の両方への対応が課題。
- ・ 新規開設は十億単位の費用が必要。（国・自治体の支援が必要）
- ・ 40人規模の入所施設だと空きが出た場合、運営が厳しい。
- ・ 施設全般で人手不足。小平市自立支援協議会でも人手不足が話題となり、社協主催で福祉人材の集団面接を行ったが応募は少なかった。他施設では外国人労働者の採用を行い運営している。
- ・ 同法人運営の「リアン文京」は、文京区より土地の無償提供を受けて整備したため、入所者は文京区民に限られる。

